

平成14・15年度帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域中間報告書

岐阜県大垣市

1 帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進地域の概要

推進地域内の外国人等児童生徒在籍数（平成14年9月1日現在）

年 度	全児童生徒数	帰国児童生徒数	外国人児童生徒数
平成11年度	14,036	12	170
平成12年度	13,795	15	170
平成13年度	13,550	18	176
平成14年度	13,395	16	196

- ア 帰国児童生徒（海外に1年以上在留） 在籍数 16名（小12名，中4名）
 イ 中国等帰国児童生徒数 3名（小3名）
 ウ 日本語指導が必要な外国人児童生徒数 47名（小35名，中12名）

推進地域の特色

大垣市内にある大手メーカーの部品製造（電子基盤）が好調で，労働力確保の見地から外国人労働者は増加する傾向にある。市民の28人に1人が外国人であり，必然的に外国人児童生徒も多くなっている。その中でもブラジル人は全国7番目の多さである。（外国人児童生徒196人のうちブラジル人児童生徒数140人）

平成12・13年度には，相次いでブラジリアンスクールが開校し，公立小中学校の他にも受け皿は整ってきた。しかし，外国人労働者は増加の一途をたどっているため，公立小中学校へ通う外国人児童生徒数は減少していない。

大垣市では，平成4年度より，県からの加配教員2人と市単独事業として通訳1名を配置して，大垣市立西小学校に日本語学級（週1回在籍校より通級）を設置し，外国人児童生徒教育の充実に努めている。しかし，近年の日本語指導を必要とする外国人児童生徒の急増に伴い，週1回のセンター校への通級だけでは，日常生活に支障をきたす児童生徒が多くなってきている。

また，「外国人児童生徒教育受入推進地域(平成12・13年度)」の指定を受け，在籍校への巡回相談を実施するなど，指導体制が確立してきた。

2 外国人児童生徒教育受入推進地域センター校等の概要

大垣市では，平成4年度より大垣市立西小学校をセンター校として，日本語学級を設置し，外国人児童生徒教育の充実に努めている。平成12年度から2年間，文部科学省より外国人児童生徒教育受入推進地域の指定を受け，日本語学級と並行して在籍校への巡回相談を始めた。また，平成14年度より大垣市立南小学校を準センター校として，日本語学級を設置した。

センター校	大垣市立西小学校
校長名	竹中 弘行
所在地	〒503-0974 岐阜県大垣市久瀬川町6-110
学校規模	児童数 587 学級数 19
電話番号	(0584)78-2339
FAX番号	(0584)78-2340
ホームページ	http://www.city.ogaki.gifu.jp/edu/nisisyo/index.htm
交通案内	近鉄西大垣駅より徒歩10分

準センター校	大垣市立南小学校
校長名	柘植 壯了
所在地	〒503-0857 岐阜県大垣市美和町1871
学校規模	児童数 423 学級数 16
電話番号	(0584)78-2513
FAX番号	(0584)78-2589
ホームページ	http://www.city.ogaki.gifu.jp/edu/nansyo/index.htm
交通案内	東海道線大垣駅バス10分，徒歩20分

日本語学級について

センター校及び準センター校では，市内の小・中学校に在籍するブラジル人・ペルー人の児童生徒を対象に日本語学級を開設し，生活や学習への適応がスムーズに行われるよう日本語指導や適応指導を行っている。日本語学級には，9月1日現在，市内14の小・中学校から34名が週1回通級しており，加配教員2名と市費によるポルトガル語通訳1名が専任で指導にあたっている。

* 日本語学級の日課

9:00	9:30	10:15	10:40	11:25	11:35	12:20	13:05	13:35	14:00
朝の会	授業1	休	授業2	休	授業3	給食・休み	帰りの会	掃除	下校

* 通級方法 大垣市の公用車とタクシーにより送迎（9時着，14時発）

* 通級する児童生徒等

曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
場所	西小学校		南小学校	
通級児童生徒	中学生2名 小学生6名 (4校より)	中学生4名 小学生3名 (4校より)	中学生6名 小学生4名 (4校より)	小学生9名 (2校より)
内訳	ポルトガル語 7名 スペイン語 1名	ポルトガル語 7名	ポルトガル語 8名 タガログ語 2名	ポルトガル語 9名
年間開設日数	37日	38日	37日	36日
年間総時間数	111時間	114時間	111時間	108時間

(年間総時間数は，上記の日課の授業1～3を1日あたり3時間とカウントして算出)

巡回相談について

巡回相談員（ポルトガル語通訳，元教員）1名が，在籍校への巡回相談を行っている。日本語学級通級者を中心に，必要に応じて対象の幅を広げている。

平成14年度より，市の事業としての巡回相談（方法は上記と同様）も追加し，より充実を図っている。また，9月より県からの加配教員1名が加わり，巡回相談を中心とする外国人児童生徒教育に携わっている。

ア 母語別巡回児童生徒数（平成14年9月現在）

- ・ブラジル人（ポルトガル語） 41名
- ・ペルー人（スペイン語） 2名
- ・フィリピン人（タガログ語） 2名



(取り出し指導で)

イ 指導時間及び指導内容

・指導時間

半日を1回とし，1ヶ月あたり各学校1～3回巡回相談を行う。

午前の場合 8:30～12:00 午後の場合 13:00～16:30

・指導内容

- 適応指導
- ・日本の文化や生活習慣についての学習
 - ・悩みの相談
 - ・学校からの連絡等についての説明

日本語指導

ポルトガル語指導（母語を忘れないように）

教科指導

○保護者との懇談

文書の翻訳



（三者懇談の通訳）

3 帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の国際化推進体制の整備

教育国際化推進連絡協議会の概要

ア 構成員

西濃教育振興事務所学校教育課課長，同担当主事，大垣市教育長，大垣市教育委員会事務局長，センター校校長，在籍小学校長代表，在籍中学校長代表，日本語学級担当者，センター校推進員，大垣国際交流協会代表で組織

イ 活動状況

構成員が積極的に関係する会等に出席し，その成果等を報告，交流

巡回相談担当者会の開催

新しく巡回相談を始める学校と担当者が新しくなった学校を対象に開催

大垣市外国人対応庁内連絡委員会に参加

大垣市に在住する外国人の急増に伴い，市各部局における外国人への対応を組織的かつ円滑に進めるための委員会である。

教育に関しては，

- ・ポルトガル語文書による啓発がされているにもかかわらず，転校，退学時に手続き等をしないケースが多い。
- ・集団に位置づかない児童生徒や未就学児童生徒が多いと推測される。

が問題点として挙がっている。

今後，次のような方向で進めていく。

- ・転校，退学時にも，外国人を雇用する業務請負会社に通訳の派遣を依頼して，一緒に学校へ出向いてもらうようにする。
- ・外国人未就学児童生徒の現状把握を行い，対応策を検討する方向で進める。

帰国・外国人児童生徒と共に進める国際理解教育を積極的に取り組んでいる学校の実践を紹介

紹介の場所

- ・教頭会，教務主任会，国際理解部会にて



（安井小学校にて）

紹介の内容

- ・日本語学級との交流等（西小学校）
- ・HIRO学園との交流（安井小学校・荒崎小学校）
- ・留学生等との交流（中川小学校・東中学校）



（西小学校にて）

ウ 協議会設置の効果

- ・教育現場以外の立場からの意見をいただき，関係者全体の児童生徒に対する意識が高まった。
- ・研修会・交流会等の実施の必要性が明確になった。
- ・外国人児童生徒教育についての情報交換ができた。

巡回相談員の派遣状況及びその効果

- ア 派遣回数 全327回（国・・・231回，市・・・96回）
加配教員は，可能な限り巡回相談員と共に在籍校への巡回相談を実施した。また，巡回相談員の派遣とは別に，日本語がかなり分かる児童生徒を対象に，単独での巡回相談も実施した。
- イ 児童生徒及び担任への対応
適応指導では，巡回相談員を介して児童生徒が自分の思いを母語で十分話すことができ，ストレスを軽減することができた。学習指導でも，言葉や文章の意味を母語で説明をしたり指導したりして，内容理解を助けた。
また，担任の意図や児童生徒の思いを通訳し，お互いの意思疎通を深めることができた。
- ウ 保護者への対応
個人懇談・電話連絡などの際の通訳，文書の翻訳等，学校と保護者とのパイプ役となり，相互理解を深め，信頼関係を築くことができた。

4 平成14年度の具体的な取組内容とその成果等について 研究主題（主題の主旨・設定理由）

「センター校における外国人児童生徒教育のカリキュラム開発及び在籍校における巡回相談員の活用による日本語指導を中心とした適応指導の効果的な指導法の研究」

主題の主旨

センター校においては，市費負担の通訳のより効果的な活用を図るなど，1日も早い学校生活への適応を目指すカリキュラムの開発に努める。また，在籍校においては，巡回相談員の活用による日本語指導を中心とした適応指導の効果的な指導方法の研究を進める。

設定理由 1の 推進地域の特色 参照

研究主題に関連した活動及びその成果

- ア センター校で
- ・日本語学級におけるカリキュラムの見直しを図ることができた。
 - ・学習意欲を喚起するような個に合った教材を工夫することができた。
 - ・日本語学級と巡回相談の担当者が児童生徒の様子を交流することで，それぞれの指導に生かすことができた。
- イ 巡回相談で
- ・加配教員と相談員の巡回で，児童生徒は週1回の日本語学級に加えて，個別指導を受ける機会が増えた。その結果，情緒面が安定し適応に効果があった。
 - ・相談員の通訳を介して，保護者との交流を深め，信頼関係を築くことができた。
- 推進地域としての取組及びその成果
- ・大垣市において，帰国・外国人児童生徒と共に進める教育の意識が高まってきた。

外国人未就学児童生徒の問題も意識され、平成15年度には外国人未就学児童生徒の現状把握を行い、対応策を検討する方向で進める予定になっている。

- ・ポルトガル語版文書の整備（新規作成及び改訂）をさらに進めることができた。また、提出文書等は、大垣市教育情報ネットワーク（OPEN）に掲載し、各学校が自由に利用できるようにしている。

帰国・外国人児童生徒とその他の児童生徒の相互啓発の観点による取組及びその成果

- ・帰国・外国人児童生徒と共に進める国際理解教育を積極的に取り組んでいる学校の実践をいろいろな場で紹介して関係者の意識を高めるとともに、各学校においては実態に合わせて少しでも国際理解教育に取り入れてもらうよう啓発した。

地域と連携した活動（民間企業、地域人材の活用状況等）及びその成果



（中川小学校にて）

- ・HIRO学園との交流（安井小学校，荒崎小学校）
- ・岐阜経済大学留学生との交流（中川小学校）
地域に根ざして、帰国・外国人児童生徒と共に歩もうとする意識が高まった。



（荒崎小学校との交流）

連携した団体等の概要

- ・HIRO学園
設立年月日 2000年4月2日
電話番号 0584-82-7056
（2001年4月，ブラジル本国による許可）

平成15年度の課題及び事業計画概要

ア センター校で

- ・日本語指導・教科指導における効果的な教材の工夫をさらに進める。
- ・日本語が十分理解できない保護者に対応していくため、必要なポルトガル語の文書の整備をさらに進める。
- ・相互理解を深め協力を得るために、保護者会等を開催する。

イ 巡回相談で

- ・定期的に日程を組むことは不可能であるが、できる限り学校の要望を取り入れて日程を組んでいく。
- ・相互理解をさらに深め、協力を得ていくために、保護者との話し合いを定期的に位置付ける。
- ・学校を休みがちな児童生徒へも積極的に手をさしのべていく。

ウ 在籍校で

- ・取り出し指導等、個に合った指導が継続的にできるような環境整備の充実を図る。

エ その他

- ・外国の文化・生活様式・考え方・対応の仕方等についての研修会をもつ。
- ・中学校卒業後の進路について、門戸を広げるようはたらきかけていく。
- ・未就学児童生徒への対応を検討していく。

（大垣市外国人対応庁内連絡委員会を中心として）